

赤い鳥



子供の日に高島屋前で待ち合わせ。行くまで死ぬほど緊張した。多分本当に一瞬死んでいたと思う。着てる服は蝶模様のワンピース。紺地に赤や橙の蝶が飛んでいる。前日にあらかじめ着ていく服を写メ送信。ああ、こういうことを皆してるんだ、と思いながら。

まず指名に戸惑う。私が選ぶ側に回るなんて。美容師の指名さえ大変なのに。年齢が私よりもだいぶ若いことも戸惑う。とりあえずこの店のキャストは大きく分けてボーイとフェムがいてボーイは男っぽい見た目&攻め、フェムは女っぽい見た目&受け。皆魅力的で素敵で優しそう。プロフィールに好きな食べ物や趣味が書いてあるが全然参考にならねえ。一番の理想は女っぽい見た目で攻めだったけどそういう人はいなかった。それが一番自分にとって非日常という理由。でもマインドが童貞処女系統の私がそんなトリッキーを仕掛けても不発に終わるだろう。ベテランで年齢が上の人をチョイス。とはいってもだいぶ若い。あれこれ逡巡して指名して予約するまで5段階かかった。

予約後はずっとそわそわした。慌てて下着をネットで買い、爪を塗った。風呂に入るだろうけど念の為、トイレでお股を拭こうとウェッティーも用意。封筒にお金を入れてかわいいシールを貼り付ける。なんやかんやいっても春を買わせて頂くという事にずーんと来る。昔の昼ドラで若い女の子に水揚げと言って金持ちのおっさんが汚らしく襲いかかったのを思い出す。その延長線上のことを私はしていると言えるのか言えないのか。

80年代のヒット曲A・H・AのTAKE ON MEを聴きながら駅まで歩く。明日の今頃はもう終わってると言い聞かせながら。難波に着き、急な思いつきで高島屋に飛び込む。いきなり下のやりとりを知らない人とするなんて無理。相手がどんなに魅力的でも無理。

まず糖分を入れて少し落ち着いて状況に慣れてみよう。デート+下半身コースもあったけど、値も張るしデートの間、その後の下半身までずっと上の空になることが予想されたのでシンプルなコースにした。確か120分。待ち合わせ場所に行くときキャストの方はすぐ私を見つけ、にっこり駆け寄って来た。めちゃくちゃかわいい。アイドルみたい。距離をつめるのが絶妙で自然に手を繋いでいた。私は激しい緊張と達成感でちょっと泣いた。ホテルに向かう私達をチラシ配りの女性がじろじろ見ていた、ように感じた。

恥ずかしながら実をいうと3日ほど前からおならが異様に臭い。臭濃度を薄めるべくトマトジュース、野菜ジュースなどを飲みまくったが当日もめちゃくちゃ臭かった。体が異常事態を察知し、スカンクみたいになっていたらしか思えない。そこまで悪い食生活をしていなかったし。緊張しすぎて前日は眠ることが全然出来なかったので朝からひどく眠かった。本当はお酒を飲んで挑むつもりだったけど酔って緩んで放屁してしまうかもしれないし寝てしまえばいいのでウーロン茶。

